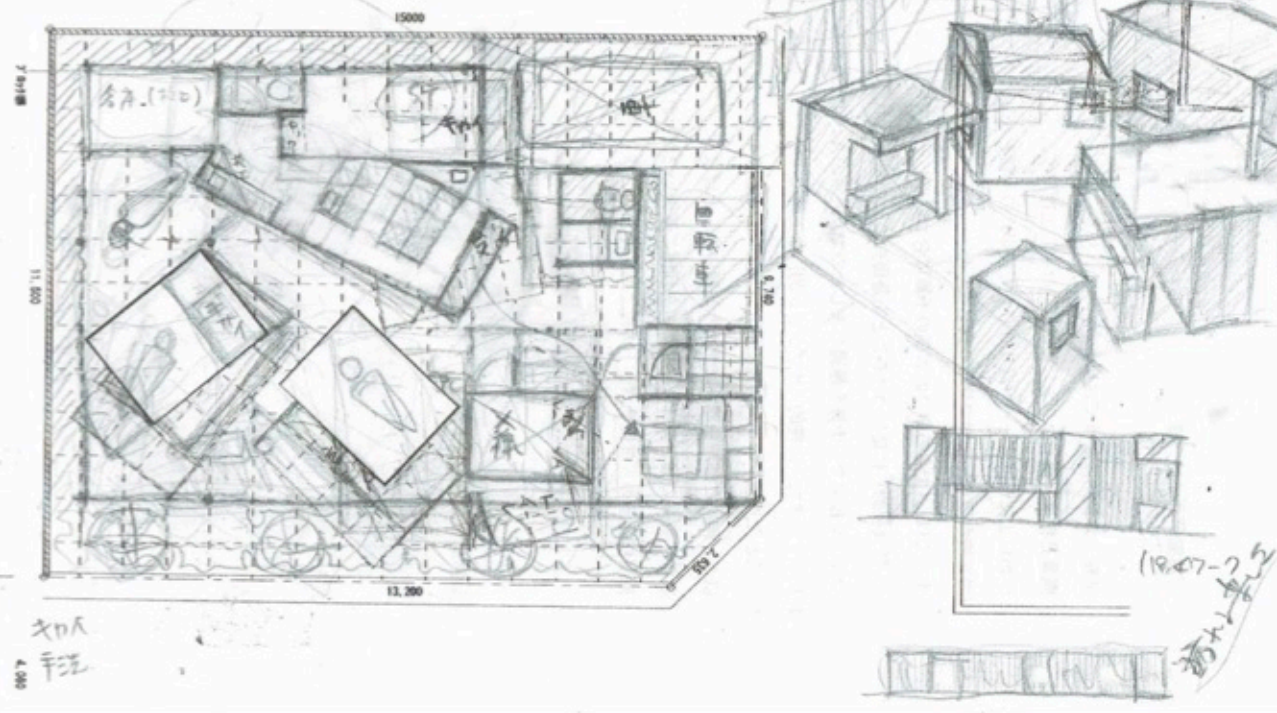


待合を少しでも広くするため、診療室のデッドスペースを削り、最小限の動線となるレイアウトの検討を重ねた。また、具現化するにつれて、模型もブラッシュアップしていった



なるのかなどを患者さんにしっかりと説明するための空間が欲しいと考えていました。待合にある個室は、そういったレクチャー用のスペースとして活用しています。現在は体組成計と唾液検査による健康相談会を主に開催しており、いずれは管理栄養士のスタッフも入れ、健康な方々が健康な状態のままでいられるような予防歯科を普及させていきたいと思います」（塚口院長）

オンリーワンの外観で 新たな患者を誘引する

白い箱を積み重ねたような外観は、内部空間の影響をありのままに受け入れたことによって、自然と生み出されたものである。孝啓さんは、「唯一無二とも言える外観は、塚口院長からの希望でもありました」と語る。「この形状は、内部で個室を組み合わせでいった結果としてでき上がったものですが、地域の人に『なんだろう?』と思わせ、歯が痛くなった時に『面白から入ってみよう』と思わせるインパクトを持たせる意味もあります。白を採用したのは、複雑な形状を『色』で分けるのではなく、『陰影』で見せたかったからです。白は決

して落ち着く色ではないと思います。その白をあえて用いることで気分を高揚させつつ、隙間などにつくり出した陰影を通して、穏やかな落ち着いた印象を表現できればと考えました」（孝啓さん）
美香さんも、こう付け加える。「内部空間だけを複雑にすることもありますが、今回は外からも感じられるようにしています。『面白い建物だけど、中はどうなってるんだろう?』と思わせ、実際に中に入ってみて、外とがつながっていることを感じて貰えたら嬉しいです」

（美香さん）
表裏一体となった建物には、開口部を設けている。孝啓さんは、「絶妙な視線制御と採光を目的にしています」と説明する。「廊下などのパブリックゾーンは、多少ならば外から見えても大丈夫でしょう。ただ、診療中の患者さんが見えてしまうことは、絶対にNGです。そういった諸条件をクリアしながら、カーテンをつけなくても良い高さで開口部をつくりました。また、季節や時間ごとに変化する外光を入り方について模型を通したシミュレーション



植栽へのライトアップに加えて、内部からの光が漏れる外観夕景。営業終了後もライトアップを続けることで、安全な街づくりに寄与する

ンを重ね、外と中とをどうつなげるかを考えながらデザインしていきました」（孝啓さん）

医師やスタッフの 意識を変える「白」

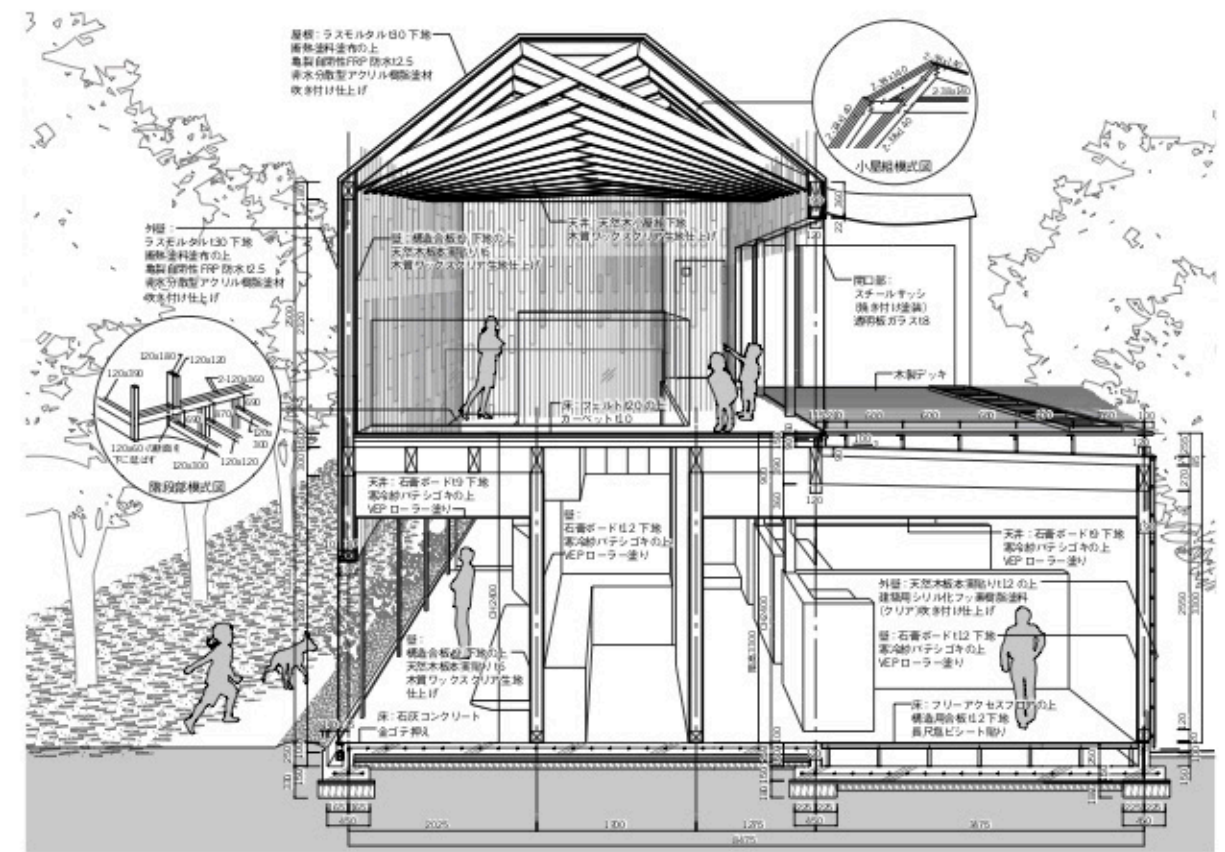
塚口院長は、初めて模型を目にした時、「これが本当に自分のクリニックになるのかという喜びで、嬉しさのあまり半泣きな気持ちになりました」と言い、開業から5年が経った今も「自分にとっても、スタッフにとっても誇らしい空間になっている」と語る。「目立つ建物を望んではいましたが、具体的にどういうデザインにして欲しいということまでは伝えていませんでした。模型を見せてもらった時には、本当に感激したことを覚えています。今でも、一日を通して気持ち良く過ごせる場所だと感じています。スタッフも患者さんから『こういう環境で働けて幸せですね』という言葉をいただいたことがあり、非常に嬉しく思います」（塚口院長）
エントランスで掲げるサインは、一般的な歯科医院と比較して、かなりシンプルかつコンパクトなものだ。一見すると、建物として目を引くものの、歯科医院とわかる人は少ないのでは

ないだろうか。また、唯一無二とも言える外観は、前例がないことと同義であり、塚口院長が不安に感じることはなかったのだろうか。質問に対して、「繰り返しになりますが、もちろん平岡さんのデザインは素晴らしいものだったと感じています。それと同時に、僕もよく受け入れたと思います」と笑う。「例えば、床を含めた空間全体が白を基調色としています。多少の汚れでも目立ってしまいます。時間が経てば、なおさらのことです。だからこそ、自分がこの空間を選択したからこそ、いつまでも清潔に保っていききたいという意識を持つことにつながっていますし、スタッフにも同じ感情を持ってもらうことができます」（塚口院長）

歯科医の意志を更なる未来へ 導く空間デザイン

当院は、初期設計のプランからはほぼ形を変えずに完成したという。塚口院長は「無いものねだりですが」と前置きした上で、こうも語った。「当初、洗面をトイレの内外にそれぞれ用意してもらった案をいただいたのですが、私の意向でトイレの中のみにもしてもらいました。今になって、

両方あった方がやはり便利だったのではと感じています。また、ロッカールームがあれば十分だと考えていたスタッフルームをもっと広く取っていたら、スタッフの働き心地も上がったのではと思います」（塚口院長）
塚口院長は、自身のクリニックのこれからについて、こう夢を述べた。「患者さんも増え、4年目には予備の個室にも診療台を入れ、マイクロスコープを3台も導入することができました。これらの夢は、勤務医の頃から思い描いていたもので、40歳までに成し遂げたいと考えていました。多くの夢を達成できた背景には、この建物の存在があると実感しています。今後は、保険診療のレベルを更に上げると共に、自費診療に関しても患者さんにしっかりと納得していただいた上で向上していきたいと思います」（塚口院長）
今では、地域の高齢者施設への訪問治療も行っているという。また、地域の環境を良くしていきたいという思いから、診療終了後も終電まで外観をライトアップしている。「デンタルIQ」を高めることで生まれ育った地域に寄与する塚口院長の取り組みは、空間がもたらす力を手に、更なる未来へとつながっていくことだろう。



断面詳細図 1:80

開口部越しに木質構造を表現し
空間の内外を一体化する

「てらむら歯科」は、大正時代に住宅改造博覧会が開催された大阪府箕面市桜ヶ丘にある。この地区に残る閑静な住宅地としての品格を保守しながら、現代の生活者に親しまれ地域に根付いていく医院づくりを考えた。これからの将来を数十年単位で見た際、これまでの歴史が何えるような、発展性を持った環境のリノベ

ションを試みている。

取得用地は更地だったが、隣接する建物との調和を図るため、周辺に建つ旧来の建築を手掛かりに、切妻に似た家型の西立面を立ち上げた。そして、モダニズムを想起させるような、丘陵に沿って弧を描いて流れる屋根を東立面に向けて設けている。建物の形態は、抽象化されてその意味を消す。外壁は、白石灰モルタルと板貼りという自然素材で親しみを与え、桜並木に対して白いキャンバスとなり、街の緑や人々の生

活の背景となることを意図した。

北側の道路沿いでは、保全しづらい環境を踏まえ、足元に緑を配した。歩行者の目線のレベルにあたる1階部分では、建築を支える木質構造を見せるため、高透過ガラスを使用。緑の被率を植栽によって高めるのではなく、この建築空間そのものが外部の桜並木を引き立てるような、内部空間と外部空間が一体となる計画を目指した。

(平沼孝啓)

data

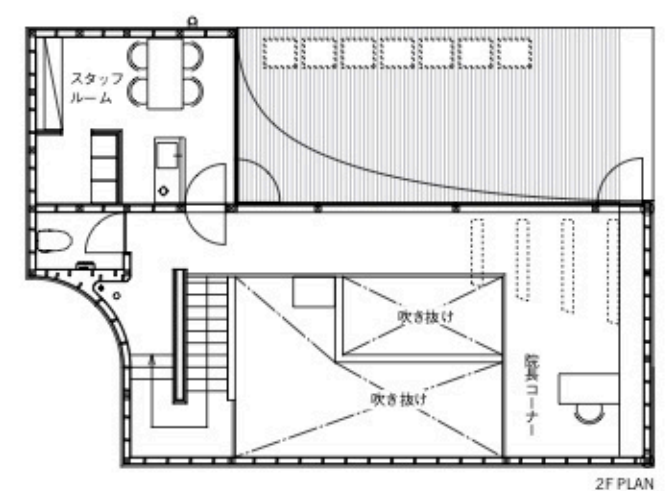
所在地：大阪府箕面市桜ヶ丘2丁目4-20
工事種別：一戸建て 新築
用途地域地区：第2種中高層住居専用地域
建ぺい率：実効62.40%＜制限70%
容積率：実効92.50%＜制限200%
構造と規模：木造 地上2階建て
敷地面積：155.92㎡
建築面積：97.29㎡
床面積：144.23㎡／1階95.97㎡ 2階48.26㎡
工期：2013年10月～2014年6月
設計協力：構造計画／福山正弘 機械設備／見並弘一
電気設備／河添成夫 カーテン／須藤玲子
施工：西村建築工房
施工協力：電気・音響設備・照明器具／栗林電気商会 給排水衛生設備／樋口設備

診療内容

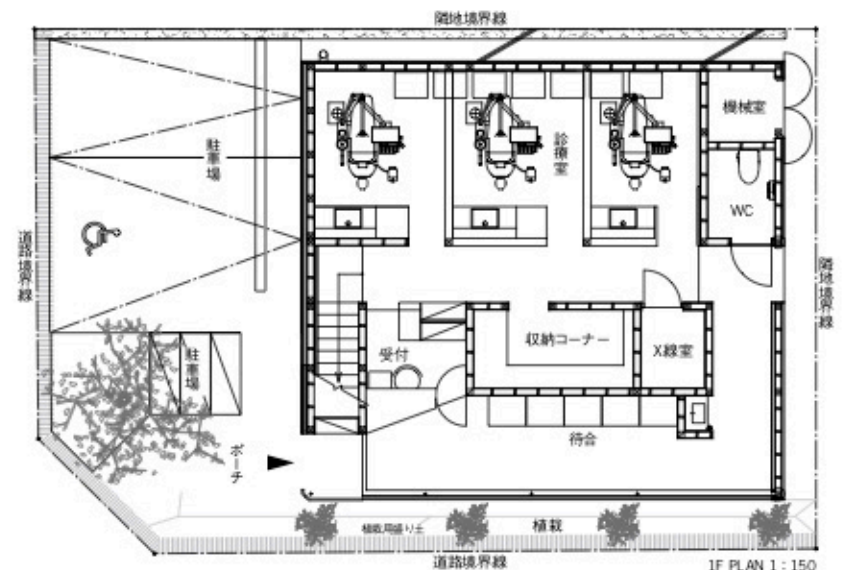
開院：2014年7月1日
診療時間：午前9時30分～午後0時30分 午後2時30分～午後7時(土曜日のみ午後0時30分まで)
休診日：日曜日、祝日 電話：(072) 720-7887
院長：寺村 薫 医療従事者数：7人 診療台数：3台
診療科目：歯科 インプラント 審美歯科 予防歯科 歯周

主な仕上り材料

屋根・外壁：ラスモルタル(石灰入り)t30下地断熱塗料塗布の上電製自閉性FRP防水t2.5+非水分散型アクリル樹脂塗料吹き付け 開口部／スチールサッシ焼き付け塗装
床：1階／土間コンクリート下地石灰コンクリート金ゴテ押さえ 2階／MDFt12下地フェルトt20の上カーペットt10クリッパー敷き
壁：MDFt9下地天然木板t6本実貼りの上木質ワックスクリア生地塗布 天然木杉板実材t9、12ランダム貼り木軸組みPBt12.5下地寒冷紗パテシゴキの上塩化ビニル樹脂エナメルローラー塗装
天井：1階／木軸組みPBt9.5下地寒冷紗パテシゴキの上塩化ビニル樹脂エナメルローラー塗装 2階／天然木小屋組みの上木質ワックスクリア生地塗布
医療機器：診療台(イオムレガロ／ジーシー)



2F PLAN



1F PLAN 1:150

上／壁面に沿ってトップライトを設けた診療室を階段方向に見通す。天然木で構成した待合に対して、白を基調色とした空間に仕上げている 下／2階院長コーナーからデッキテラス方向を見る。2階の床面の高さは、隣家の軒先の高さを踏まえて決定した





data

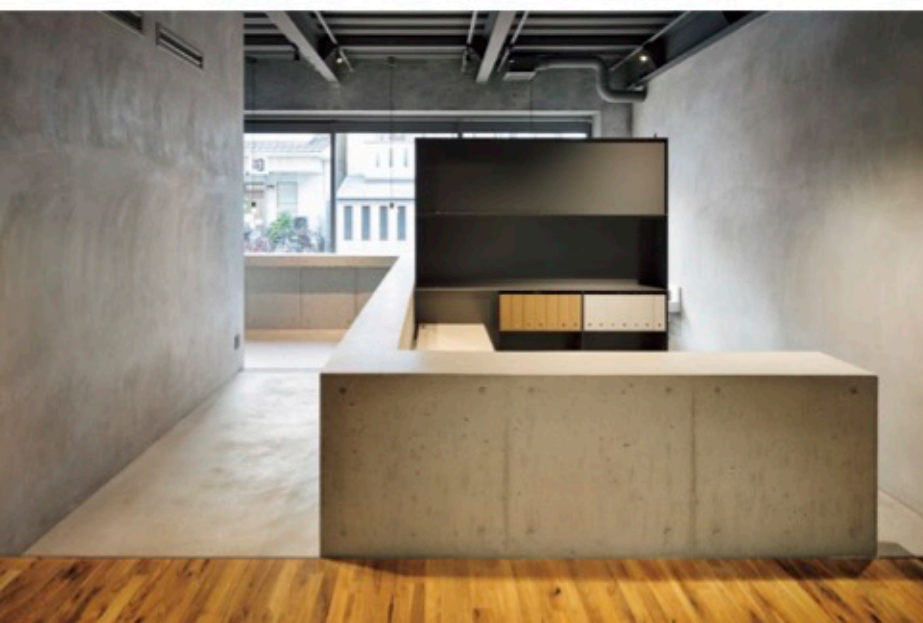
所在地:大阪府岸和田市堺町 5-5
 工事種別:内外装 部分改装
 床面積:240 m²
 工期:2016年12月1日~2017年2月20日
 設計協力:設計/カノメ 近藤卓生 照明計画/ニューラ
 イトボタリー
 施工:スペースインテリア・ナカノ 中野利春
 施工協力:家具/MK サイン/池淵麻子

診療内容

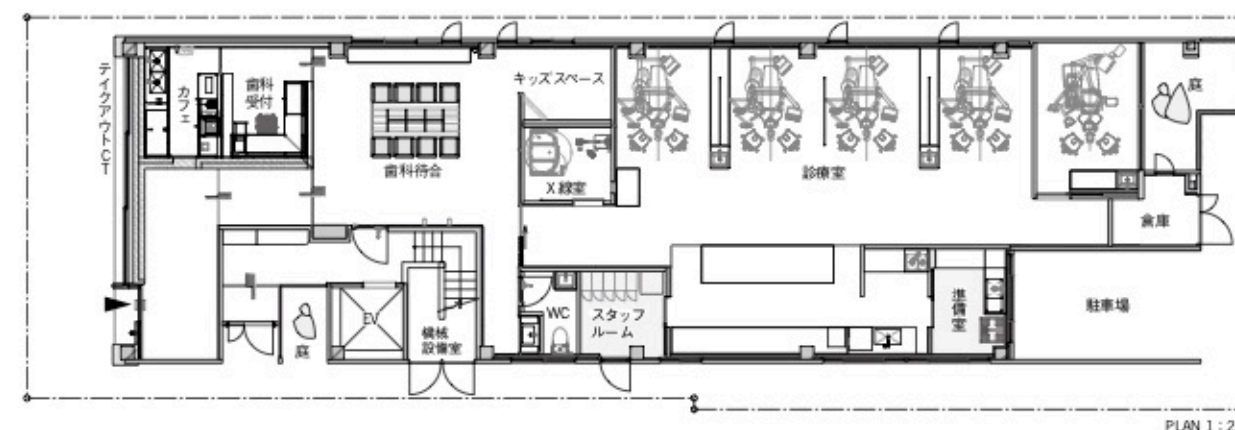
開院(リニューアル):2017年3月1日
 診療時間:午前9時~午後7時30分
 休診日:日曜日
 電話:(072) 422-0715
 院長:池淵利彦
 医療従事者数:医師2人 スタッフ7人
 診療台数:5台
 診療科目:歯科 矯正歯科 インプラント 歯周外科
 ホワイトニング

主な仕上り材料

外壁:モルタル金ゴテ押さえ下地保護塗料塗布
 サイン:SUS焼き付け塗装
 床:フローリング貼り モルタル金ゴテ押さえ
 壁:サイディングボード貼り モルタル金ゴテ押さえ フ
 レキシブルボード化粧貼り 磁器質タイル貼り
 天井:一部スケルトンOP PBt9.5下地AEP
 家具:テーブル/チーク無垢材オイル仕上げ
 什器:スチールフレーム フレキシブルボード化粧貼り
 医療機器:診療台(ESTETICA E50 life/カボ デンタル
 システムズ ジャパン)



上/エントランスからカフェカウンター
 を見る。コンクリート型枠仕上げのカ
 ウンターが、テイクアウトコーナーか
 ら歯科受付まで連続する 下/カフェ
 カウンターの裏側に設けた歯科受付



PLAN 1:200

路面

インナーガーデンテラスから緩やかに移行する空間

フルカワ歯科診療所

設計 / 矢部達也建築設計事務所 矢部達也

撮影 / 高橋洋平

歯科

小児歯科

矯正歯科

歯科口腔外科

ガラス張りの引き戸に挟まれた
インナーガーデンテラスから診
療室を見る。植栽は、患者や道
行く人々の目を楽しませると同
時に、互いの視線を遮っている